

万が一の災害に備えることはとても大切。その必要性は誰もが理解しているが、例えば非常食をきちんと管理しているかと聞かれれば、答えに困る人は少なくないだろう。頭では必要と分かっているけど、なかなか行動に移せない災害への備え。今回は、その「理解」と「行動」をつなぐために奮闘する、岡本さんにお話を伺った。

# デザインの力で 「ボウサイ」を日常に

株式会社R-pro代表取締役  
yamory代表

岡本ナオトさん

東日本大震災をきっかけに  
「ボウサイ」事業をスタート

岡本さんが防災活動に携わるようになったきっかけは、2011年に発生した東日本大震災だ。被災地支援で訪れた東北で、被災した方々の声を聞き、改めて防災の大切さを痛感した。そんなとき、名古屋で知り合った大学生が運営する非常食の定期宅配サービス「yamory」を知り共感、サポートするように。しかし主宰者が学業に専念するため「yamory」は岡本さんに託された。

「賞味期限や保管場所などの課題があるので、非常食の管理は面倒。それを解消するのが定期宅配サービスです。賞味期限内に次が届くから、自分でチェックする必要がなく、定期的に届くことで、忘れかけていた防災の大切さを再確認できます」

代表を務めるデザイン会社R-proにこの活動が加わり、「ボウサイ」事業がスタート。「ボウサイ」とカタカナなのは、気軽さや親しみやすさを演出するため。ボランティアではなく事業としたのは、責任を持つことで少しでも社会全体の防災が進むと考えたからだ。

経験から学んだ  
自分なりの社会との向き合い方

株式会社R-proのモットーで、岡本さんのポリシーでもある「社会が抱える課題を解決したい」という思いが、彼を被災地でのボランティア活動へと向かわせた。その思いに至るまでには、人生観を変える出来事があった。大学生時代に参加したNGO主催の「スタディツアー」で訪れたタイとスリランカでの経験だ。

「プログラムは、日本の若者たちが現地の人々と交流しながら、自らの手で保育園をつくるというものでした。そこで当時の東南アジアやインドの状況を知り、自分の常識が世界では当たり前ではないことが身にしみてわかりました」

そして、いつか自分の会社を立ち上げ、『社会が抱える課題を解決できる』ビジネスをしようと決心する。

また、「大ナゴヤ大学」との関わりも、岡本さんの生き方に大きな影響を及ぼした。街を丸ごとキャンパスに見立て、人生を楽しむために大人が学ぶ「シブヤ大学」の姉妹校として、2009年に名古屋でスタート

した活動だ。どのような場面においても、人が心地よく行動するためにはクリエイティブが重要な役割を果たすことを再確認し、街づくりのベースも学んだ。この活動が糧となり、やがてR-proの「マチヅクリ」事業部へと発展。借り手によって変化するシェアオフィスの運営や行政のまちづくりイベントのプロデュースなどを手がけることとなる。

家族、若者、子どもを対象に  
多彩な「ボウサイ」を提案

2013年から始まった「ボウサイ」事業は、対象別にさまざまな活動を行っている。

一般家庭を対象にしたもの一つが、前出の非常食の宅配サービス。

若者を含む大人を対象とした活動では、世界中から収集した「ボウサイ×テクノロジー」の情報をウェブサイトで発信する「SAIBOTECH」、防災関連イベント「YAMORY CAMP」おしゃべりで防災に役立つグッズ「LOOPS」などの開発・販売を展開する。

子どもたちを対象とするのはボードゲームの「いえまですごろく」。



パラコードアクセサリ「LOOPS」  
パラシュートのコードとして使われている頑丈な素材を使ったアクセサリ。パラコードをほどくと、シングルで1.24m、ダブルで2.63mの長さに。普段から身につけて、非常時には利用価値の高いロープになる。

バージョンをつくりたいと動いている。「防災教育を私たちだけのものにしておいてはいけないと思うんです。防災教材を探している学校や学童保育所、行政の担当部署の方々はもちろん、防災教育に貢献したいとお考えの企業や個人の方々にも、ぜひご支援いただきたいですね」

クリエイティブをベースに  
「ボウサイ」を日常化

R-proの「ボウサイ」事業の活動やサービス、商品の最大の特徴は、そこにクリエイティブが感じられ、デザイン性が高いことだろう。もともとデザイン事業からスタートした会社ならではの洗練さやファッション性、可愛らしさが随所に息づいている。だから若者や子どもたちが肩肘を張らずに、すんなりと取り入れ、参加できることが大きなメリットとなっている。

「大上段に構えて正論を振りかざすのも違う気がして。防災は誰にでも必要なもの。だからこそ、ライフスタイルの中に溶け込み、機能するものでなくてはと思います」

「防災について  
“理解”と“行動”をつなぐのは  
クリエイティブだと思う」

株式会社R-pro

2009年創業。デザインをベースに、「ボウサイ」「マチヅクリ」「スポーツ」「クラウドファンディング」の4つの分野で、世の中にある社会課題の改善・解決を目指すクリエイティブカンパニー。

<https://rpro4dp.com/>

非常食定期宅配サービス

半年に一度、非常食が届く定期宅配サービス。先ごろ、フェイスブックで募った委員会を開催して意見を出し合い、より美味しく、食べる楽しみもプラスした非常食へとブラッシュアップするため、現在フルリニューアル中。

<https://yamory.com/>



「いえまですごろく」

子どもたちが楽しみながら、防災について学べるボードゲーム。競うのではなく、協力することでゴールできる。防災授業の一環として導入している学校も。



「いえまですごろく」は、同社社員でデザイナーの本多由季さん(右)の大学卒業制作がベースとなった。



岡本ナオト NAOTO OKAMOTO

1977年(昭和52年)神奈川県生まれ。大学卒業後、就職のため名古屋へ。「大ナゴヤ大学」の立ち上げメンバーを務めたほか、多様なワーキングスペースが整えられた「なごのキャンパス」(2019年秋オープン)の運営に携わる。クリエイティブな視点でさまざまな課題解決を行う株式会社R-pro代表取締役、非常食宅配サービスyamory代表。

## 「ボウサイは、 自分と愛する人を守るため 誰にでも必要なもの」

好きだから買う、可愛いから身につける、楽しそうだから参加する、面白そうだから読んでみる、美味しそうだから食べてみる…。もしかしたら防災にも、そんな普通の感覚が求められているのかもしれない。起こるかもしれないけれど、いつ起こるか分からない災害に対して、常に緊張して意識を向け続けるのは、あまりにも難しいからだ。

「防災事業を展開する企業やグループ、法人は沢山あります。でもそれぞれに役割が違おうと思うのです。私たちは防災だけを追求してきたプロフェッショナルではありませんが、クリエイティブの視点やノウハウはあります。だったら、それを結びつけて、防災をより身近で気軽な日常にしよう。数多い防災関連事業や活動の中で、そこが私たちの立ち位置かなと感じています」

意識しなくてもできる  
「ボウサイ」をめざして

ここ数年、世界中で自然災害が増えたなと感じている人は多いだろう。そこで、岡本さんが目指す防災の今後について伺ってみた。

「究極は、防災をなくすことです。言い方は逆説的ですが、つまり、意識して防災をするのではなく、自然にいつのまにか防災力が上がるようなシステムやアイテム、プログラムや教育をもっともっと開発し、それを広く行きわたらせることで、身近に当たり前にある「ボウサイ」に変えること。それが私たちの目標です。地域や企業を巻き込んで、社会に浸透させたいと考えています」



### SWITCH of My Life

語り部さんの  
力強い言葉に  
背中を押されて



「yamory」を引き継ぐにあたり岡本さんには迷いがあった。そんなとき、岩手県陸前高田市で被災体験を語り伝える釘子明さん(写真右)に会い、「帰ったら自分の町の避難所を確認して」と言われた。「被災したばかりなのに『助けて』ではなく、過去の反省を受け継げなかった自分たちと同じ失敗をするなどという釘子さんの言葉が迷いを消し、背中を押してくれました」。